

災害支援チーム

災害時に固定チームナーシングを機能させ患者
に必要とする看護を提供するための取り組み



4群○皆川由美子
須藤 歩

大原佐江子
梅木夕里香

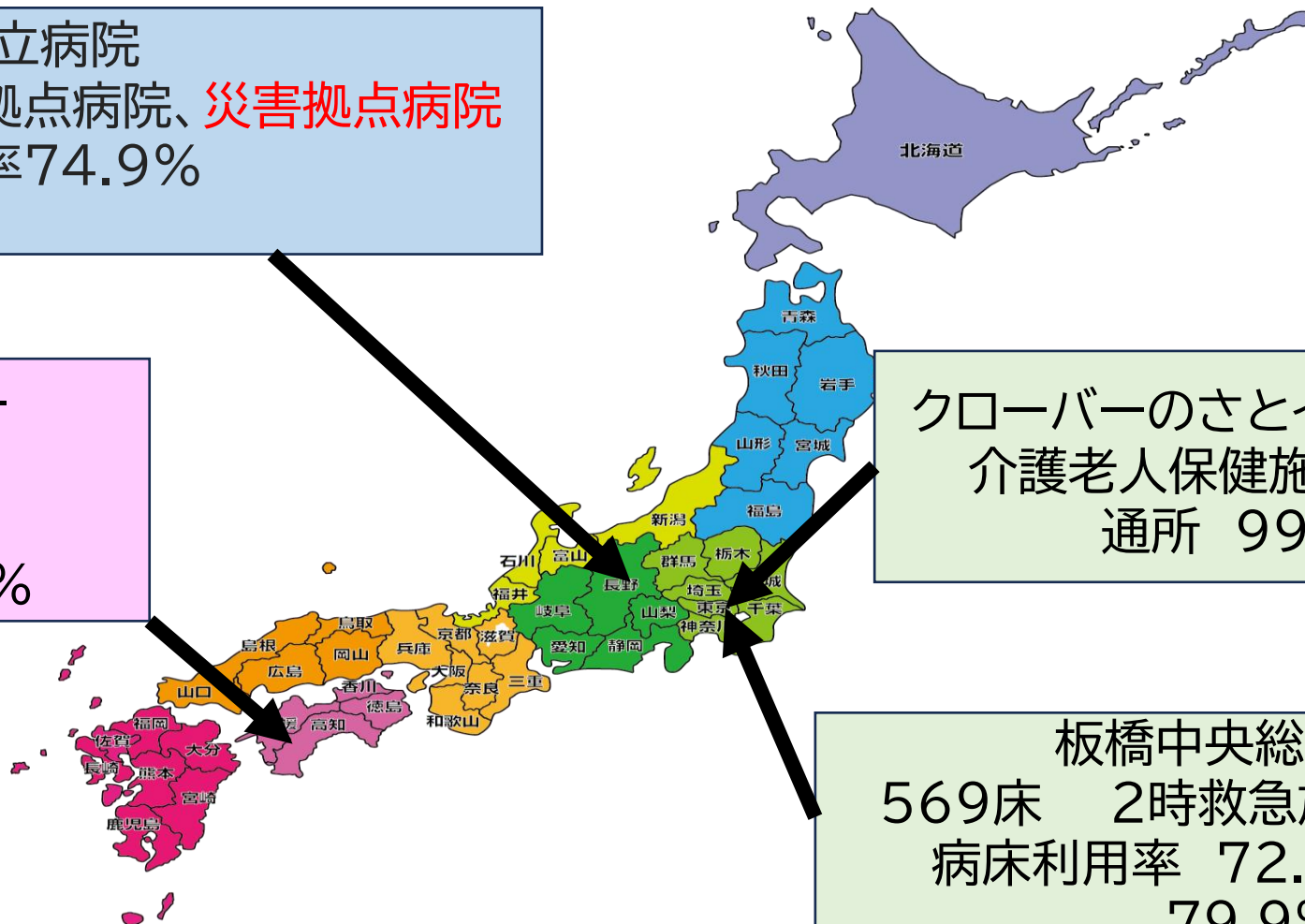
メンバー所属病院の概要

飯田市立病院
地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院
403床 病床利用率74.9%
稼働率81.5%

四国がんセンター
がん専門病院
病床数368床
病床利用率75.7%

クローバーのさとイムスケアカウビリ板橋
介護老人保健施設 88床 97.2%
通所 99名 70.2%

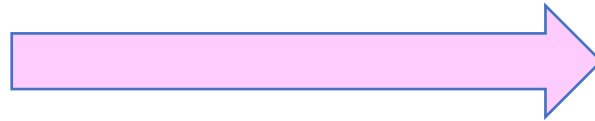
板橋中央総合病院
569床 2時救急施設 基幹施設
病床利用率 72.4% 稼働率
79.9%



【あるべき姿】

災害時においても、固定チームナーシング機能を活用して、患者に必要な継続看護を提供する

災害時においても、固定チームナーシング機能を活用して、患者に必要な継続看護を提供するための本来のあるべき姿を目的として考える



【現状】

各施設に災害マニュアルはあるが、災害時に固定チームナーシングを機能させ患者に必要な継続的看護を提供するための準備はされていない

【問題】

災害時に全職員が混乱し、固定チームナーシングが機能せず患者が必要とする看護提供されない可能性がある

課題の設定

問題

災害時に全職員が混乱し、固定チームナーシングが機能せず患者が必要とする看護提供されない可能性がある



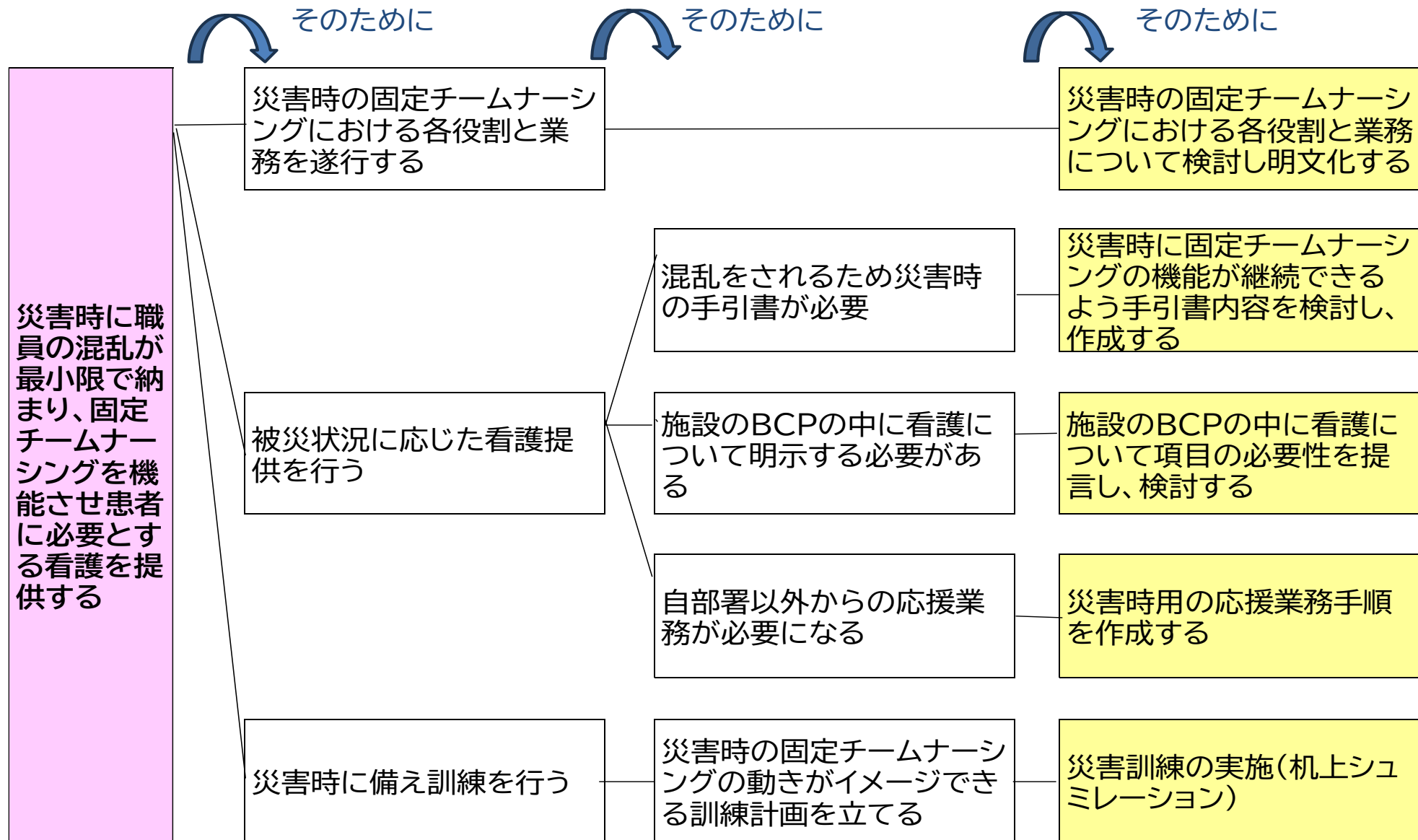
課題

災害時に職員の混乱が最小限で納まり、固定チームナーシングを機能させ患者に必要なとする看護を提供する



目標:災害時に活用できる固定チームナーシングの手引書を作成する

HOWツリー



優先順位	解決策
1	災害時用の応援業務手順を作成する 共同業務の整備
2	災害時に固定チームナーシングの機能が 継続できるよう手引書内容を検討し、作成する
3	災害時の固定チームナーシングにおける 各役割と業務について検討し明文化する
4	施設のBCPの中に看護について項目の必要性 を提言し、検討する
5	災害訓練の実施(机上シュミレーション)

今回WGでは1～3について
取り組みます



取り組み計画

長期目標		災害時でも固定チームナーシングを機能させ質の高い継続した看護を提供する											
短期目標		災害時に活用できる固定チームナーシングの手引書を作成する											

項目		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
初期計画	施設ごとのBCPの確認												
	ロジックツリーを使い 現状分析												
	① 災害時用の応援業務手順を作成・共同業務の整備												
	② 災害時に固定チームナーシングの機能が継続できる手引書作成												
	③ 災害時の固定チームナーシングにおける各役割と業務について明文化												

災害時用の応援業務手順を作成 共同業務の整備

作成時の留意点 災害医療の基本原則CSCAの確立
 応援者が困らない体制(ペア制)

	進行状況
埼玉ロイヤルケアセンター	マニュアル整備 業務実施状況表作成
板橋中央総合病院	応援機能体制基準の作成 災害時日課表の作成
飯田市立病院	応援機能体制基準の作成 業務実施状況表作成
四国がんセンター	副看護師長会WGと共同で作成中(12月完成予定)

板橋中央総合病院 応援機能体制基準

応援機能 体制基準

1.運営基準

以下の場合、師長・主任・責任者代行は応援機能を活用し、業務が滞りなく安全に終了することができるよう調整する。

災害時でも、応援機能を活用し安全に業務を遂行できるよう調整する。

1) 対象者

(1) 原則 2 年目以上の看護職員とする（看護補助者含む）

外来・他部署でしか経験できないよう知識・技術の習得が必要な看護職員を優先的に抽出する。

＊ 1 年目を応援に出す場合は、先輩看護師とペアで応援部署へ行く。

災害時は、災害対策本部の指示に従い応援体制の調整指示を受ける。

(2) 中途入職者は、当院入職後半年以上経験した看護職員とする。

(3) センター化している部署は、応援対象部署として優先的に協力する。

(4) 外来一元化している部署は、外来⇄病棟観での応援を優先的に調整する。

2) 要請基準

(1) 他部署観での応援の場合

①他部署の勤務状況の変更等で応援要請があった場合

②急変や緊急入院、手術等の発生に伴い、職員の応力や業務内容により業務調整が必要になった場合

③災害発生により出退勤・休憩の調整が必要になった場合

(2) 部署内での応援の場合

①他チームや外来の勤務状況の変更等で応援が必要な場合

②急変や緊急入院、手術等の発生に伴い、職員の能力や業務内容により業務調整が必要になった場合

③外来の状況外来の状況に応じて、応援が可能な場合（外来の休診・患者数や外来ブースに応じた人数配置など）

④災害時発生により他チームの出退勤・休憩の調整が必要になった場合

3) 応援業務基準

(1) 他部署へ応援に行く場合

①当該部署の共同業務に基づき師長・主任・責任者代行が指示を出す

日々の業務調整は、日々リーダーの指示のもと実施し、報告する（報告時間は部署内で確認）

* 以下「部署内での応援の場合」の業務基準に準ずる

(2) 部署内の応援の場合

①自部署の共同業務に準じて、師長・主任・責任者代行が指示をする

日々の業務調整は、日々リーダーの指示のもと実施し、報告する

②日課表、チームワークシートをもとみ業務を行う

③各種マニュアルに基づき指導・実施する

④患者情報を共有、把握し業務にあたる

⑤判断に迷う際は、日々リーダーへ相談。必要時は師長・主任・責任者代行へ相談。

⑥緊急入院や緊急手術等で業務調整が必要と判断し場合は、日々リーダー間で相談し、応援要請する。必要時は師長・主任・責任者代行へ報告する

⑦災害時は、予定していたケアや業務の見直しを師長・主任・責任者代行と日々リーダーで相談し、優先順位をつけ実施する。

災害時に固定チームナーシングの機能が 継続できる手引書作成

第1章:理念と目的

災害時においても固定チームナーシングの理念を維持し、患者に対する継続的かつ安全な看護を提供することを目的とする

第2章:災害時の体制と役割分担

災害時におけるチーム構成、役割分担(トリアージ、搬送、記録など)を明確にし、迅速な対応を可能にする

第3章:情報共有と申し送りの方法

申し送りのルール、情報共有手段(ホワイトボード、無線、紙ベースなど)を定め、継続看護の仕組みを維持する

第4章:応援体制と再編成ルール

メンバーの欠勤時の代替体制、応援者の役割、チーム再編成のルールを明記する

第5章:訓練・教育・振り返りの仕組み

災害訓練との連動、小集団活動の活用、人材育成と教育体制を整備する

とりあえず
構成について
考えてみました
具体的内容は
これからです



災害時の固定チームナーシングにおける 各役割について

看護師長の役割

①	自身の安全をはじめ患者やスタッフの安全を確保する(S:安全確保)
②	指揮命令系統を確立する(C:指揮命令・調整)
③	被災状況報告を受け自部署被災状況を把握し本部に報告する(A:評価・判断)
④	本部からの情報(病院の方針など)をスタッフや患者に正確な伝達する (C:意思疎通・情報伝達)
⑤	本部の方針や部署の現状分析をして課題を明確にする
⑥	課題を解決できるようチーム目標を設定するよう動機づける
⑦	必要な人員を確保する(シフト調整,部署を越えた応援体制の要請)
⑧	必要なベッド数の確保を行う(退院促進・被災患者の受け入れ準備・転院調整)
⑨	必要な衛生材料等の資源不足状況を本部に報告し調整する
⑩	災害に関連したストレスマネジメント ・睡眠・休憩の確保やメンタルヘルスケアなどの支援 ・倫理的判断と支援
⑪	必要に応じて、家族への連絡や情報提供を行う
⑫	部署で発生した問題点や改善点を把握し解決策を立てる。
⑬	安全でやりがいのある職場づくりに専心する
⑭	多職種との連携体制の構築
⑮	災害記録の作成と振り返り

日々リーダーの役割

①	自身の安全をはじめチームの患者やスタッフの安全を確保する(S:安全確保)
②	チーム内の指揮命令系統を周知する(C:指揮命令・調整)
③	チーム内の被災状況を把握し看護師長に報告する(A:評価・判断)
④	看護師長からの情報(病院の方針など)をスタッフや患者に正確に伝達する (C:意思疎通・情報伝達)
⑤	日々のチーム活動に責任を持つ
	・チームの患者状態を把握する
	・必要な医療処置、看護ケアを把握する
⑥	・災害時の限られた資源の中で、患者の尊厳を守る看護の実践 チーム内での倫理的なジレンマに対して、相談・支援の窓口となる
	日勤メンバーを統括し、チーム看護業務を円滑に遂行するためのマネジメントを行う
	・その日のメンバーの業務を把握し、業務調整する
	・必要時、他チームへの応援要請をする、また他部署応援の必要性を看護師長に報告する
	・必要な衛生材料の資源の把握をし、不足等に関することを看護師長に報告する
⑦	・転院調整やベッドコントロールがスムーズに行えるよう看護師長に患者状況を報告する
	・メンバー間で良好なコミュニケーションが取れ円滑な業務調整ができているか確認する (特に応援スタッフへの配慮)
⑧	日々の業務や看護を通してスタッフや応援スタッフを支援する
	・応援スタッフや新人への災害時の基本的な対応方法の説明や指導を行う
⑨	災害時における看護を継続するためのリーダーシップを発揮する
⑩	指示に従い食事および休憩休息を取得できるようリーダーシップを発揮する
⑪	部署で発生した問題点や改善点を見つけ、看護師長に報告し、解決策を検討する (災害後の振り返りと改善提案)
⑫	日々のリーダーの役割を認識し、自己のキャリア開発につなげる

災害時の固定チームナーシングにおける 各役割について

日々受け持ち看護師の役割	
①	自身の安全をはじめ担当患者の安全を確保する(S:安全確保)
②	チーム内の指揮命令系統を確認する(C:指揮命令・調整)
③	担当患者の被災状況を確認しリーダー看護師に報告する(A:評価・判断)
④	看護師長からの情報(病院の方針など)を患者に正確に伝達する(C:意思疎通・情報伝達)
⑤	担当患者の看護に責任を持つ
	・限られた人員と物品を有効活用し全てが治療できない状況下で主治医に必要な医療ケアを確認する
	・被災による不安や混乱を抱える患者への傾聴や共感的対応をする
	・災害時の感染対策を徹底する
⑥	担当患者の看護計画に従って、処置・ケア・共同業務を実施してチェックする
⑦	応援看護師とはペアで動き、必要な看護ケアについて指導する
⑧	日々リーダーと協力してチーム活動を行う
	・報告・連絡・相談を徹底する
⑨	次のシフトのナースに必要な事項が正確に伝わるように情報共有する
⑩	指示に従い食事および休憩休息を取得する
⑪	部署で発生した問題点や改善点を見つけ、リーダー看護師長に報告する

固定チームリーダーの役割	
①	自分のチームの患者ケアに責任を持つ
②	応援メンバーを支援する
	・応援メンバーの指導、教育を行う
	・応援メンバーが意欲的に活動ができるよう、人間関係や環境調整を行う
③	部署全体の現状把握をしチームの現状分析ができる
	・部署の患者背景や治療の状況に関して数字による情報収集を行い現状の把握をする
	・小集団活動やチーム活動に関して数字による情報収集を行いチームの状況の分析をする
④	チーム会を開催をする
⑤	リーダー会に出席してチーム会の報告と協力を要請できる

受け持ちナースの役割	
①	受け持ち患者の看護に責任をもつ
②	受け持ち患者の情報管理を行う
③	受け持ち患者に必要な看護を継続するためにリーダーシップを発揮する

板橋中央総合病院災害時日課表

災害時勤業務の流れ(日勤・夜勤)					
	責任者	日々リーダー	メンバー	外来	看護補助者・保育士
	※身の安全の確保後、被害状況を確認。				
	全体朝礼			院内BCPIに則る。	・自身の身の安全の確保。
	・自身の身の安全の確保 ・被害状況(人的・物的被害)を確認。 ・被害状況を報告書へまとめる。 ・院内対策本部の指示を受け、日々リーダーまたはメンバーへ院内対策本部へ提出の指示を出す。	・自身の身の安全の確保 ・責任者の指示に従う 被害状況(人的・物的被害)の確認と、責任者へ報告。 ・責任者の指示を受け、院内対策本部へ第1報告書・第2報告書・第3報告書を提出する。	・自身の身の安全の確保 ・責任者の指示に従い、被害状況(人的・物的被害)の確認を行い報告。 ・日々リーダーが報告書を提出できない場合、責任者の指示のもと院内対策本部へ提出する。	外来診療再開までは院内対策本部指示に従い、 ・配属された箇所にて業務を実施する。	・責任者の指示に従い、被害状況(人的・物的被害)の確認。 ・患児の場合は出来る限り、集合させ見守りが出来る
	★3人以上の出勤、かつ日々リーダー経験がある者が出勤している場合は、日々リーダーを設置。人数に応じチームを分ける。				
	・院内対策本部の指示を受け、第3報ベッドコントロール(病棟移動・搬送)準備を実施。日々リーダーまたはメンバーへ指示を出す。 ・患児はできる限り見守りができる環境を調整し、指示を出す。	・病棟移動、搬送の指示がある患者を搬送班へ引き継ぐ。 ・搬送後は責任者へ報告。			
	・院内対策本部の指示を受け、第3報ベッドコントロール(受け入れ)準備を実施。日々リーダーまたはメンバーへ指示を出す。	・受け入れ準備を実施。受け入れ後は責任者へ報告。			
	・応援要請が必要か、または応援に出せるのか状況判断を適宜実施し、院内対策本部と調整する。	*ケア内容は検討中			
	・院内被害状況(インフラ)・スタッフ出勤数に応じ、清潔ケアの内容を検討しスタッフへ伝える。				
	★患者の食事は院内対策本部から指示を受け、配膳。				
	・休憩は状況に応じ、適宜責任者が指示				